

2012（平成24）年度事業報告

2012年10月1日から2013年9月30日まで

特定非営利活動法人 ニンジン

I. 事業の成果

「モンゴル障害者支援事業」では、「障がい児療育支援」にしばり、昨年に引き続き、熱意のある療育専門家の協力・参加のもとに、4月から5月にかけて専門家がチームでモンゴルを訪問し、現地障がい児の親たち、医療関係者を対象に、障がい児の早期発見、早期療育の実現に向けて啓発セミナー、診察、訓練指導を行った。また、あらかじめ現地での採寸に基づいて身体に合った車いすを探して障がい児に届け、療育に役立てる試みも本格化した。

療育にかかわる人材育成の面では、春に1日、8月に第2回の4日間にわたる理学療法士の研修を実施することができた。当初より行っている車いすの支援についても、持って行った車いすを使えそうなお子さん用に調整してお渡ししてきたが、専門家の協力により、現地での採寸に基づいて身体に合った車いすを探して送るという道も開けた。

ニンジンとしては、初めて助成金を受けて事業を行った。

組織運営については、支援事業にかかわるミーティングが加わり、事務局業務が煩瑣となり、今後の運営体制を見直す必要が出てきている。

財政面では、2012年度はモンゴル障がい児療育支援事業に助成金を2か所から得ることができ事業をすすめることができたが、さらなる資金調達を図ることが課題である。

II. 事業の実施に関する事項

事業名	内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
1. アジア諸国等海外の障がい児・者に対する療育等支援事業						
(1) モンゴル障がい児療育支援事業						
ア. 療育専門家の訪問	療育専門医、理学療法士、車いす技術者、障がい当事者の参加協力により8名のチームで医療機関、障がい児施設での診察、訓練指導、講義、セミナー、車いすの調整を実施。医療関係者との交流、現状把握を行う。渡航費をもつての派遣は3名のみ。	4月27日 ～ 5月6日	モンゴル国 ウランバートル、国立母子健康研究センター 小児神経科・リハ科、ソヴド治療保育園、自立生活センター	8人	障がい児医療従事者：約30人 障がい児・者と家族：約100人	1,546

イ. 理学療法士(PT)研修会	「装具療法の基本、装具の調整法」をテーマとする4日間のPTを対象とする研修会を開催。講師は諸石真理子 PT.	8月13日 ～ 8月16日	国立母子健康研究センター小児リハ科	5人	直接的対象者(PT, 医師、保母): 4人、 訓練児と家族: 約30人	637
ウ. プラスチック短下肢装具材料の支援	モンゴルでプラスチック装具の製作ができるようになることをめざし、研修に使用する材料を提供した。	8月4日	国立リハビリテーションセンター	3人	直接的対象者	66
エ. 使用済み車いすの収集と配布	車いす、装具等を収集・整備し、40台を寄贈した。4月の専門家訪問と8月のモンゴル交流ツアー時に運搬を実施。	12月 ～ 8月	東京都板橋区、 東京都港区 ウランバートル、	35人	モンゴル国の 障がい児・者 と家族: 約100人	225
オ. 活動報告会	事業の報告会を開催し、あわせてモンゴル音楽を聴いた。	6月21日	東京都新宿区	20人	一般市民: 147人	185

2. 海外の障がい児・者等との交流事業

(1) モンゴル、タイ等への研修・交流ツアーの企画実施

ア. 第9回モンゴル交流ツアー	車いすを運び、モンゴルの自然と生活文化にふれ、障害児・者の課題に取り組む人たちの交流をする。	8月4日～ 8月11日	モンゴル国 ウランバートル、南ゴビ	8人	モンゴル国の障害児者: 約100人	1,342
イ. 北タイ・焼き畑の村スタディツアー	北タイのラフ族の村に滞在し、森復活の取り組みに学び、養豚講座を実施。現地のリーダー、村人と交流。	2月7日～ 2月14日	タイ、チェンマイ、チェンライ、	9人	北タイラフ族等: 約100人	611
ウ. タイへの高校生スタディツアー	東京・順天高校のタイ修学旅行生の北タイ滞在期間について、ツアーの企画・コーディネートを行った。	7月24日 ～ 8月3日	タイ、チェンライ、パヤオ、チェンマイ	5人	日本の高校生、教員: 22人 タイの現地交流相手: 約500人	1,810

3. 啓発事業

(1) セミナー等の開催	実施なし					0
--------------	------	--	--	--	--	---

4. 文化交流事業

(1) ハワリンバヤールへの参加	モンゴル文化交流イベントへブース出展し、活動を紹介。	5月3,4日	東京都練馬区	15人	一般市民: 5万人	10
------------------	----------------------------	--------	--------	-----	-----------	----

5. 情報提供事業

	HP、ブログ等、ニュースレター等の発行により情報を発信。	随時	法人事務所	2人	一般市民: 不特定多数	0
--	------------------------------	----	-------	----	----------------	---

6. 東日本大震災復興支援事業

(1) 募金をもとにした活動	石巻のNPO法人「障がい児と共に歩む会」へ支援金を届けた。	10月	宮城県石巻市	1人	石巻市の障がい児と家族: 約200人	35
----------------	-------------------------------	-----	--------	----	--------------------	----

Ⅲ. 事業の報告

1. 海外との協力事業

(1) モンゴル障がい者支援事業

ア. 療育専門家の訪問

療育の各種専門家がチームを構成しモンゴルを訪問し、ウランバートルにおいて国レベル、地区、障がい児保護者の会において診察・訓練指導を行うとともに、早期発見、早期療育をよびかける啓発セミナーを実施した。

実施期間：2013年4月27日(土)～5月6日(月) 10日間

助成：財団法人日本国際協力財団

訪問先：ウランバートル市内、母子センター小児神経科・リハ科、障がい児保護者の会、ソヴド治療保育園、自立生活センター(ユニバーサル・プログレス・センター、在モンゴル日本大使館

訪問団メンバー：8名

中島雅之輔 (整形外科医・東京都北療育医療センター)

諸石真理子 (理学療法士・通所&入所施設嘱託)

梅村 浄 (小児科医・梅村こども診療所)

梅村 涼 (グッドライフ自立生活センター)

今清水勝人 (車いす技術者・(株)ゼット本社)

中根和之 (車いす技術者・(株)ゼット本社)

中島久子 (中島医師夫人・記録)

楨ひさ恵 (事務局)

現地協力：ヒシゲーさん (通訳)、高橋生仁子さん(NGO Sujatashand)

主な内容：・障がい児保護者の会でのセミナー、診察・訓練の指導、車いすの調整・配布、採寸
・母子センターでの障がい児の診察、訓練の指導 (昨夏のPT研修のフォローアップ)、小児病院院長との面談
・ヤールマグ外来病院でのセミナー・訓練の指導、レクチャー、質疑・懇談
・ソヴド治療保育園での診察・訓練の指導、車イス等の配布
・自立生活センターでの車いすの配布、採寸

成果：日本でかつて障がい児の保育の場づくりを実際に行い、行政を動かしてきた経験者とそこで育った本人の話を聞く機会を得て、現地の障がい児の保護者や医療関係者には刺激となった。小児病院院長と協力体制をつくることで意見が一致し、今後に期待がもてた。

課題：まだ、実際に自分たちで動き出そうというのには、現実感が足りていない。しかしこちらが主導するのではなく、あくまで保護者が立ち上がることを啓発していく必要がある。院長の交代により母子センターとの関係の再構築。

早期発見のため、乳児の全数調査を実施している保健師の協力を得る。財政的な裏付けが必要である。

イ. 理学療法士(PT)の研修会の開催

春に昨夏の研修のフォローアップ研修を行い、8月の研修の企画を検討した。昨夏もっと長い研修をと要望されていたため、1日増やし4日間実施した。

目的：装具療法の基本を認識し、使用されている装具の適合性や問題性の評価を学び、装具の適切な使い方や調整法ができるようになること

テーマ：①下肢装具の使用目的及び種類を知る
②短下肢装具の適合とフォローアップ
③脳性麻痺児訓練実技で目標と課題設定を学ぶ

期日：2013年8月13日～16日

共催：国立母子センター

助成：財団法人地球市民財団、財団法人日本国際協力財団

会場：国立母子センター小児病院リハビリ理学療法室

講師：諸石真理子 PT、 補助：高橋生仁子さん

通訳：バヤラー (Monkhdoi BAYARJARGAL) さん、

協力：JICAの石橋和比古隊員(国リハ・PO)……採型、装具製作

サイハンセテゲル義肢工場……装具製作の場を提供(国リハは休み中)

研修生：母子センターの4名(初日のみ5名)

リハ医師1名、リハ看護師1名、PT研修をうけている看護師1名、

PT(専門教育を受けた2期生)1名

成果：装具について理解し、実際に補正の仕方を学んだ。

研修の中で採型・装具の仮合わせを行い、その効果を実地に体験した。

ウ. プラスチック短下肢装具(SHB：シューホーン装具)製作材料の支援

療育に装具の効果が大きいことから、モンゴルでプラスチック装具が製作できるようになることをめざし、現地の国リハにいるJICAの石橋和比古POにその製作研修用に材料を提供した。8月に製作材料を持参した。石橋POが秋以降にモンゴル人POを対象に製作研修を行う予定である。

材料：ポリプロピレンシート他65,767円分

助成：財団法人日本国際協力財団

協力：大崎保則氏(装具1式分の材料及び継手5点の寄贈)

エ. 使用済み車いすの収集と配布

2012年度は、あらかじめ採寸したお子さんの身体に合う車椅子・バギーなどを国内で探し、必要なベルト、クッションなどを付けて届けることに注力した。4回で合計64台をモンゴルへ届けることができた。

助成：財団法人日本国際協力財団

協力：心身障害児総合医療療育センター、株式会社ゼット本社、
株式会社 MIKI、株式会社エムジェイツアーズ、モンゴル航空

①	搬出日 台数 寄贈先 申請者	2012年11月28日(土) JICA 世界の笑顔プログラム H24-2 31台、他6点 保護者の会(車いす17台、バギー7台、座位保持装置1台) 自立生活センター(車いす5台、歩行器1台) ソヴド保育園(訓練具、おもちゃ6点) 宮口彩子隊員(PT、国立外傷整形外科センター・リハ科)
②	搬出日 台数 寄贈先	2013年4月27日(土) 療育専門家訪問団 13台、クラッチ、付属品、装具 保護者の会(車いす6台、バギー6台) スジャータシャンド(バギー1台)
③	搬出日 台数 寄贈先 申請者	2013年6月19日(水) JICA 世界の笑顔プログラム H25-1 10台 保護者の会(車いす5台、バギー1台、座位保持装置2台) 外傷整形センター(バギー1台) シヤスティン中央病院(車いす1台) 清水由歌隊員(OT、シヤスティン中央病院・リハ科)
④	搬出日 台数 寄贈先	2013年8月4日(日) モンゴル交流ツアー参加者 10台、下肢装具類、SHB 製作材料 保護者の会(車いす8台) シェアザジョイセンター(車いす1台) 外傷整形センター(車いす1台)

課題：収集・保管・配布の方法を無理なくできるようにする。
現地での情報管理、手配をする事務局への経費保障。

オ. 活動報告会

モンゴル支援事業の報告をチャリティコンサート『モンゴルの風』とあわせ実施した。ロビーにモンゴルでの活動写真パネルを展示し、ステージからも帰国した協力隊員が現場の状況を報告し、ニンジンの活動への理解を広めた。

開催日時：2013年6月21日(金) 19:00～21:00

会場：ルーテル市ヶ谷センター(東京・新宿区)

出演者：サウガゲレル(横笛リンベ、ホーミー)

山本敦子(ヨーチン)

報告者：野沢綾子さん、宮口彩子さん、 来場者：147名

2. 海外の障がい児者等との交流事業

(1) モンゴル、タイ等へ研修・交流ツアーの実施

ア. 『第9回モンゴル交流ツアー～車いすを届ける旅』の実施

車いすをモンゴルに運び、障がい児に届けて交流し、あわせてモンゴルの大自然にふれるツアーを実施した。今回は、南ゴビのNGO シェアザジョイセンターの療育キャンプに全員で1泊し、諸石PTと高橋さん(通訳と補助)による訓練指導を行い、キャンプにいたお子さんと保護者たちと交流した。

実施時期：2013年8月4日(日)～11日(日)

参加者：5名+諸石PT, 事務局、南ゴビへ高橋生仁子さん同行

訪問先：ウランバートル市内、障がい児保護者の会、南ゴビのNGO
シェアザジョイセンターの療育キャンプ

イ. 『北タイ・焼き畑の村スタディツアー』の実施

ラフ族の人びとを主として支援してきたルデラ（ラフ農村開発）では、森の復活と農民の自立を組み合わせた取り組みを行っている。この取り組みを実際に見て、あわせて村の生活文化を体験するスタディツアーを実施した。植林する農民に豚を配り生活支援をしており、千葉県東金市の西芳秀氏(獣医)が講師として村で豚の飼育方法についての研修を行った。

実施時期：2013年2月7日(水)～14日(水)

参加者：全行程6名、現地参加3名

内容：チェンマイからチェンライへ移動。山の村でホームステイ、村の生活体験、森復活の取り組み見学、養豚講座、古着バザー開催、研修農場見学、子ども寮で交流。

ウ. タイへ高校生のスタディツアーのコーディネート

東京の私立・順天高校が行うタイ修学旅行の北タイ滞在期間について協力し、さまざまなハンディを抱える人々、また同世代の青少年と出会い交流するスタディツアーの企画・コーディネートを行った。

実施時期：2013年7月24日(水)～8月3日(土)

受入人数：順天高校より、生徒19名、引率教員3名

内容：<チェンライ>メーサイ、ゴールドントライアングルで国境を見る、山岳少数民族ラフ族の村の生活体験、研修農場での農業体験、子ども寮での交流

<パヤオ>学校訪問、ホームステイ

<チェンマイ>HIV/AIDS 関連の活動、ストリートチルドレン関連施設などの訪問、視察交流、象乗り

協力者：ダイエー・セイリ氏（チェンライ・ルデラ代表）

川口泰広氏（チェンマイ）

3. 啓発事業 実施せず

4. 文化交流事業

(1) ハワリンバイヤル 2013 (モンゴルの春まつり) への参加

在日モンゴル留学生会が中心となって開催されているモンゴル文化交流イベントにブースを出展し、モンゴルでの活動を紹介するパネル展示を行い、来場者に理解を広めた。

開催日：2013年5月3日～4日

会場：練馬区・都立光が丘公園

主催：在日モンゴル留学生会／実行委員会

5. 情報提供事業

(1) インターネットによる情報提供

ホームページおよびブログによる発信に努め、情報の提供に努めた。

HP：<http://www.ninjin-npo.org/>

ブログ URL：<http://blog.canpan.info/ninjin-jpn/>

情報公開サイト、寄付サイトへの情報更新、イベント情報の発信を行った。

(日本財団 CANPAN、日本 NPO センターNPO ひろば、イーココロ)

(2) ニュースレターの発行、Eメールニュース(ニンジン・アップデート)の送信

6. 東日本大震災復興支援事業

(1) 募金をもとにした支援活動

指定寄付金：35,020円を宮城県石巻市の特定非営利活動法人「障害児と共に歩む会」に活動を再開するための支援としてお渡しした。

7. 組織運営

(1) 会員の拡大

各事業を通じて会員拡大に努めた。

会員数 (2013年9月30日現在)

個人正会員 38名(41口)

団体正会員 3団体

個人賛助会員 35名(44口)

団体賛助会員 2団体

(2) 会議の開催

ア. 通常総会の開催

期日：2012年12月2日(日)

会場：中央区女性センターブーケ 21

イ. 理事会の開催

期日：12月2日、8月29日

ウ. 運営委員会の開催

理事および会員有志により運営委員会を開き、事業実施の詳細を決め、実施した。6回開催。会場：大友喜久江さん宅(初台)、事務所

(3) 事務局機能の充実

総務部門(経理および会員管理)を大友喜久江さんが担い2人体制。

経理については、岡田州代さんがアドバイザーを務めた。

(4) ニンジン・サポーターズ倶楽部

イベント等に出展して、ニンジンの宣伝・広報・募金活動に活躍した。

①「ひよこっち」第15回自主ライブ

期日：2013年3月30日(土) 鈴木茂、宮崎節子、大友喜久江

31日(日) 堀越通生、宮崎節子、大友喜久江

会場：障害者スポーツ文化センター横浜ラポール

来場者：2日間で700名。

②順天高校スポンサードウォーク 団体プレゼン：4月9日

強歩大会：4月27日 応援に野口陽子、宮崎節子、大友喜久江の3名参加

ニンジン受領寄付額：141,224円

③ハワリンバヤル

期日：2013年5月3日～4日 堀越通生、野沢綾子、他

④チャリティコンサート「モンゴルの風」